

令和4年度

# 病害虫発生予察情報

第14号

## 7月月報

北海道病害虫防除所 令和4年(2022年)8月18日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

### I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

—暖かい空気が流れ込みやすくなりかなりの高温。太平洋側では記録的な高温。—

7月は南からの暖かい空気が流れ込みやすかったことや、高気圧に覆われた日も多かったため、月平均気温はかなり高かった。特に太平洋側の月平均気温の平年差は、7月として高い方から第1位(統計開始1946年)と記録的な高温となった。月降水量は日本海側とオホーツク海側では少なかったが、太平洋側では中旬を中心に低気圧や湿った空気の影響を受けやすかったため多かった。

北海道地方：月平均気温はかなり高く、月降水量は平年並、月間日照時間は平年並だった。

日本海側：月平均気温はかなり高く、月降水量は少なく、月間日照時間は平年並だった。

オホーツク海側：月平均気温は高く、月降水量は少なく、月間日照時間は多かった。

太平洋側：月平均気温はかなり高く、月降水量は多く、月間日照時間は平年並だった。

上旬：高気圧に覆われて晴れた日が多く、また暖かい空気に覆われやすかったため、気温はかなり高くなった。7月上旬の平均気温の平年差は北海道地方と日本海側で高い方から第1位、太平洋側で高い方から第2位となった(統計開始1946年)。

中旬：低気圧や湿った空気の影響により曇りや雨の日が多かった。太平洋側東部では、前線を伴った低気圧が通過した影響で、17日に標津町糸櫛別で143.5mmを観測し7月としての極値を更新するなど、記録的な大雨となった所があった。

下旬：期間の前半は低気圧や湿った空気の影響で雨が降った日もあったが、期間の後半は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。太平洋側では気温がかなり高くなり、特に31日は釧路で33.5°Cを観測し、観測史上(観測開始1910年)日最高気温の高い方から第1位の値を更新した。

#### 気候表(気温は平年差(°C)、降水量・日照時間は比(%))を示す)

	気温偏差°C	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22 地点平均	+1.9	か高	84	並	108	並
日本海側10 地点平均	+1.8	か高	59	少	110	並
オホーツク海側4 地点平均	+1.2	高	56	少	120	多
太平洋側8 地点平均	+2.4	か高	130	多	100	並

注)階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。

各階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。

なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表示します。

## II. 病害虫発生概況

注) 本資料における表中の0の表記について

0のみの場合、調査時に発生がなかったことを示す。0.0あるいは0.00などは、四捨五入により数値が表示されていないことを示す。

### A. 水稲

#### 1. いもち病（葉いもち） 発生期 やや早 発生量 やや多

予察田の「きらら397」における葉いもちの本田初発期は、北斗市では平年より早く、岩見沢市及び比布町で平年よりやや早かった。発生量は、比布町では平年より多く、北斗市では平年よりやや多く、岩見沢市では平年並であった。

一般田における巡回調査によると、7月6半旬現在いずれの地点においても発生は認められていない。

予察田におけるいもち病の初発期

地点	品種名	取り置き苗初発期		本田初発期		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	6月27日	6月28日	7月19日	7月22日	10
	ななつぼし	6月27日	6月28日	7月19日	7月20日	10
比布町	きらら397	6月25日	6月23日	7月10日	7月15日	10
	ななつぼし	6月25日	6月26日	7月5日	7月16日	6
北斗市	きらら397	6月27日	6月20日	7月7日	7月17日	8

注) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

予察田における葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0	0.2	0.5	2.4	5.0	10.6	10
	ななつぼし	0	0.5	0	4.0	17.0	14.7	10
比布町	きらら397	3.0	0	18.0	6.5	26.0	18.8	10
	ななつぼし	3.0	0	16.0	4.5	27.0	18.3	6
北斗市	きらら397	1.5	0.1	7.0	4.3	16.0	13.0	10

注) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

一般田におけるいもち病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)				
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬		
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年	
空知	本所	7	0	0	0	0	渡島	本所	3	0	0	0	0	
	南東部	2	0	0	0	0		檜山	本所	2	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0			北部	2	0	0	0	0
	中空知	4	0	0	0	0		上川	本所	7	0	0	0	0
	北空知	7	0	0	0	0			富良野	2	0	0	0	0
石狩	本所	3	0	0	0	0	大雪		4	0	0	0	0	
	北部	7	0	0	0	0	士別	2	0	0	0	0		
後志	本所	4	0	0	0	0	名寄	3	0	0	0	0		
胆振	東胆振	4	0	0	0	0	留萌	本所	4	0	0	0	0	
日高	西部	3	0	0	0	0		南留萌	2	0	0	0	0	

## 2. ニカメイガ 発生期 並 発生量 多

長沼町の予察田フェロモントラップにおける成虫の初発期は、平年並であった。誘殺数は平年より多かった。

予察田におけるフェロモントラップによるニカメイガの誘殺数

月・半旬	長沼町	
	本年	平年
7月1半旬	22	3.4
2半旬	41	9.3
3半旬	95	20.0
4半旬	143	29.4
5半旬	124	21.2
6半旬	91	17.0
初発期	6月27日	6月29日
平年数	10	

## 3. ウンカ類 発生期 ヒメトビウンカ(第2回)：早、セジロウンカ：やや早 発生量 やや多

予察田におけるヒメトビウンカ第2回成虫の初発期は、長沼町及び北斗市で平年より早く、比布町では平年よりやや早かった。予察田における水田すくい取りによる初発期は、長沼町及び北斗市で平年より早く、比布町では平年よりやや早かった。予察田による成虫誘殺数は、北斗市で平年より多く、長沼町及び比布町では平年よりやや少なかった。予察田におけるすくい取りによる捕獲数は、比布町で平年より多く、長沼町及び北斗市では平年よりやや多かった。

予察田におけるセジロウンカの初発期は、北斗市で平年より早く、比布町で平年よりやや遅かった。長沼町では誘殺が認められていない。予察田における水田すくい取りによる初発期は、長沼町及び北斗市で平年より早かった。比布町では捕獲が認められていない。予察田における成虫誘殺数は北斗市で平年より多く、比布町では平年よりやや少なかった。予察田における水田すくい取りによる成虫捕獲数は、長沼町及び北斗市で平年より多かった。

一般田における巡回調査によると、全74地点のうち、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取りによる捕獲数が吸汁害の発生する密度(成虫：1,800頭、または幼虫：900頭)に達した地点は認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察田誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察田誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	0.2	12	0.6	5	0.5	2.5	0.8	0	1.7	5.0	1.0
2半旬	0	1.3	8	3.4	16	0.7	10.0	2.5	15.0	0.5	2.5	1.5
3半旬	7	11.3	5	12.5	11	1.1	12.5	3.1	7.5	6.5	5.0	2.0
4半旬	30	148.6	12	104.0	107	11.3	12.5	5.7	10.0	28.8	7.5	3.5
5半旬	44	50.0	64	249.0	35	15.2	40.0	13.4	145.0	41.0	0	5.8
6半旬	19	232.3	1720	1867.3	78	22.6	27.5	10.7	645.0	103.8	15.0	5.8
初発期	7月3日	7月14日	7月4日	7月8日	7月9日	7月16日	7月5日	7月14日	7月8日	7月11日	7月1日	7.IV
平年数	10		10		10		10		10		10	

注)初発期は第2回成虫

セジロウンカ成虫の予察田誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察田誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0	0	0	18	2.0	0	0	0	0	25.0	0.5
2半旬	0	0	0	0.1	0	0.7	0	0	0	0	20.0	3.0
3半旬	0	0	0	0.2	1	0.2	0	0.3	0	0.5	5.0	2.5
4半旬	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	1.8
5半旬	0	0.7	0	0.4	8	1.1	0	0.1	0	0	0	0.8
6半旬	0	1.9	4	15.4	95	23.7	20.0	0	0	1.0	0	7.0
初発期	-	7月24日	7月31日	7月28日	6月26日	7月23日	6.VI	8.II	-	8.III	7月3日	7.IV
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取り数(20回振り)

普及センター	地点数	7月6半旬		普及センター	地点数	7月6半旬			
		本年	前年			本年	前年		
空知	本所	7	0.4	1.1	渡島	本所	1	3.0	0.7
	南東部	2	0	15.0		檜山	本所	2	0
	南西部	3	0.7	7.7		北部	2	2.3	0
	中空知	4	1.0	0.3	上川	本所	7	21.6	1.0
	北空知	7	3.1	0.7		富良野	2	25.0	2.0
石狩	本所	3	1.0	1.7		大雪	4	16.3	7.5
	北部	7	4.1	1.3	士別	3	0	0	
後志	本所	4	0	0.3	名寄	3	8.7	0.3	
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	4	0	0.3
日高	西部	3	0	0.7		南留萌	2	0.5	0

#### 4. イネドロオウムシ 発生量 やや少

予察田における幼虫数は、長沼町で平年よりやや多く、北斗市では平年より少なかった。比布町では発生が認められなかった。被害葉率は、長沼町で平年よりやや高く、北斗市では平年より低かった。

一般田における7月6半旬の巡回調査によると、全74地点のうち、移植栽培で減収する被害葉率70%に達した地点はなかった。

予察田におけるイネドロオウムシの発生状況

月・半旬	水田見取り調査による幼虫数(25株あたり)						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	277	78.1	0	50.8	4.5	57.3	54.4	19.2	0	12.2	2.2	11.1
2半旬	117	83.4	0	26.6	4.5	46.5	49.1	22.4	0	12.5	2.9	15.7
3半旬	26	76.7	0	14.2	0.5	18.9	44.6	22.2	0	12.6	2.8	12.4
4半旬	9	47.0	0	4.8	0	9.1	33.5	20.3	0	12.4	2.3	15.7
5半旬	2	24.5	0	1.7	0	5.6	29.6	20.0	0	11.4	1.8	11.8
6半旬	3	3.4	0	1.3	1	1.5	23.6	15.1	0	12.3	1.5	11.0
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるイネドロオウムシの幼虫数および被害葉率

普及センター	地点数	幼虫数				被害葉率(%)		
		6月6半旬		7月3半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	本年	前年	
空知	本所	7	21.3	12.7	1.0	1.4	0.1	1.3
	南東部	2	0	0	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0	0	0
	中空知	4	0.3	0.8	0	0	0.1	0
	北空知	7	4.3	1.0	3.6	0	0.4	0.6
石狩	本所	3	0	0	0	6.3	0	1.7
	北部	7	0	0.1	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0	0	0	0
胆振	東胆振	4	0	0	0	0	0	0
日高	西部	3	0	0	0	0	0	0
渡島	本所	1	1.0	0.3	0	0.3	0	0
檜山	本所	2	1.5	0	1.5	12.0	10.0	2.5
	北部	2	0	0	0	0	0	0
上川	本所	7	0	0	0	0	0	0
	富良野	2	0	0	0	0	0	0
	大雪	4	0	0	0	0	0	0
	士別	3	0	0	0	0	0	0
	名寄	3	0	0	0	0	0	0
留萌	本所	4	0	0	0	0	0	0
	南留萌	2	0	0	0	0	0	0

注) 幼虫数は25株あたり

5. アカヒゲホソミドリカスミカメ(第2回)

発生期 やや早 発生量 多

<7月15日付け注意報第4号>

<8月1日付け注意報第5号>

予察灯による第2回成虫の初発期は、北斗市で平年より早く、長沼町及び比布町で平年よりやや早かった。予察田における水田すくい取りによる初発期は、長沼町で平年より早く、比布町及び北斗市で平年並であった。

予察灯による成虫誘殺数は、長沼町及び北斗市で平年より多く、比布町では平年よりやや多かった。予察田における水田すくい取りによる捕獲数は、長沼町及び比布町で平年より多く、北斗市では平年よりやや多かった。

一般田における7月6半旬の巡回調査によると、水田すくい取りによる発生モニタリングでの追加防除の基準である捕獲数1頭以上(「ななつぼし」の場合)となった水田は、全74調査地点のうち、空知、石狩、後志、胆振、日高、檜山、上川、留萌地方の計41地点であった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)						
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
7月1半旬	36	5.3	0	1.6	183	8.7	2.5	0	0	0	0	2.5	1.0
2半旬	106	20.3	3	1.2	192	10.6	0	0	0	0	0	0	0.3
3半旬	543	164.5	0	7.9	67	30.2	0	0	0	1.0	7.5	0	0
4半旬	3670	323.8	11	21.2	229	108.2	10.0	0.9	30.0	2.5	0	0.3	0.3
5半旬	3531	265.6	9	22.9	143	157.3	40.0	1.4	15.0	1.3	0	1.8	1.8
6半旬	3261	922.8	206	120.7	222	126.0	20.0	3.0	10.0	2.0	2.5	4.4	4.4
初発日	7月2日	7月5日	7月6日	7月10日	6月27日	7月8日	7月20日	7月31日	7月19日	7月21日	7月26日	7月26日	7月26日
平年数	10		10		10		10		10		10		10

巡回調査によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成幼虫の20回振りすくい取り数

普及センター	地点数	畦畔				水田		
		7月3半旬		7月6半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	本年	前年	
空知	本所	7	0.1	0	1.6	0.1	5.9	2.9
	南東部	2	0	0.5	3.5	7.5	0.5	4.0
	南西部	3	11.7	2.0	17.7	7.3	4.3	0.7
	中空知	4	5.8	1.8	2.8	2.8	1.5	0.3
	北空知	7	2.1	0.6	2.0	0.6	2.0	0.4
石狩	本所	3	6.7	1.3	26.7	1.7	5.0	0.3
	北部	7	0.6	0.3	1.6	0.9	6.3	0.6
後志	本所	4	1.3	1.0	1.0	0.3	2.8	1.0
胆振	東胆振	4	0	0	3.0	0.8	3.8	0
日高	西部	3	0	0	0	0	0.3	0
渡島	本所	1	0	0.7	2.0	1.0	0	0.7
檜山	本所	2	0	0.5	0.5	0	1.0	0
	北部	2	0.3	0	1.5	0.5	0.3	0
上川	本所	7	5.0	2.1	4.7	0.7	0.7	0.3
	富良野	2	8.5	1.5	0	6.0	5.8	2.5
	大雪	4	8.5	0.3	4.0	0.5	2.5	1.3
	士別	3	11.7	0	1.3	0	5.8	4.0
	名寄	3	4.3	3.3	4.7	1.0	6.7	2.7
留萌	本所	4	7.0	0.8	3.1	1.0	0.5	1.3
	南留萌	2	1.5	3.0	3.0	0	1.5	0

## 6. フタオビコヤガ 発生量 少

予察灯による成虫誘殺数は、比布町で平年より少なかった。長沼町及び北斗市では誘殺が認められなかった。第2回幼虫による予察田の被害葉率は、比布町で平年並、長沼町では平年より低かった。北斗市では被害が認められなかった。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.4	0	22.7	0	2.3	0	1.8	0.3	0.8	0	0.0
2半旬	0	5.3	0	31.9	0	1.9	0	1.7	0.3	0.7	0	0.1
3半旬	0	8.9	0	8.7	0	0.9	0	1.1	0.3	1.8	0	0.1
4半旬	0	1.3	0	3.3	0	0	0	2.0	0.4	2.9	0	0.1
5半旬	0	0.3	0	5.6	0	0.4	0	2.3	0.5	3.8	0	0.1
6半旬	0	3.2	5	153.0	0	1.2	0.3	3.8	0.2	4.5	0	0.1
平年数	10		10		10		10		10		10	

## B. 秋まき小麦

### 1. 赤かび病 発生量 並

予察ほ「きたほなみ」における発生量は、訓子府町は平年より多く、長沼町は平年並、芽室町は平年よりやや少なかった。発生菌種は、長沼町では *F. graminearum* の割合が高く、芽室町では *F. graminearum* 及び *M. nivale* の割合が高く、訓子府町では *M. nivale* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)				
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.	不明
長沼町	きたほなみ	5.3	4.8	10	30.0	0	70.0	0	0
芽室町	きたほなみ	4.8	9.9	10	32.0	12.0	40.0	12.0	4.0
訓子府町	きたほなみ	18.5	9.2	10	60.0	6.7	33.3	0	0

注) M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*、不明: 菌種不明

### 2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの発生量は、訓子府町で平年より少なかった。長沼町では発生が認められなかった。ムギクビレアブラムシの発生量は、長沼町で平年並、訓子府町では平年より少なかった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の寄生虫数(25穂あたり)

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	3.5	2	29.6	2	1.4	2	5.8
2半旬	0	1.3	1	13.9	0	1.0	0	3.4
3半旬	0	0.9	0	3.8	0	0.2	0	0.6
4半旬	0	0	0	4.7	0	0	0	1.6
平年数	10		9		10		9	

注1) 25穂あたりの寄生虫数

## C. 春まき小麦

### 1. 赤かび病 発生量 やや少

予察ほの「春よ恋」における発生量は、長沼町は平年並、比布町は平年より少なかった。発生菌種は、いずれの地点とも *F. graminearum* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	春よ恋	30.7	33.2	10	2.7	2.7	94.6	0
比布町	春よ恋	0.5	2.9	7	0	12.5	87.5	0

注)M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*

## D. とうもろこし

### 1. オオタバコガ 発生量 やや多

フェロモントラップによる誘殺数は比布町及び北斗市で平年よりやや多く、長沼町では平年並であった。その他の地点では、誘殺が認められなかった。

オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	4	1.8	1	0.1	0	0	0	0	0	0
2半旬	0	0.3	0	0.1	0	0	0	0	0	0
3半旬	0	0.5	0	0	1	0	0	0	0	0
4半旬	0	0.9	0	0	0	0	0	0	0	0
5半旬	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0
6半旬	0	0.5	0	0	0	0.1	0	0	0	0
平年数	10		9		7		7		7	

## E. 豆類

### 1. べと病(大豆) 発生期 並 発生量 多

長沼町の予察ほにおける初発期は平年並で、発生量は平年より多かった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	7月22日	7月21日	0	0.2	0	1.8	25.0	9.1	10

**2. 菌核病（菜豆） 発生期 早 発生量 多**

芽室町の予察ほにおける初発期は平年より早く、発生量は平年より多かった。

7月6半旬の一般ほにおける巡回調査では、十勝地方で発生が認められている。

予察ほにおける菌核病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月15日	7月21日	5.0	0	6.5	2.3	10

一般ほにおける菌核病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
胆振	本所	1	0	0	十勝	本所	3	0.7	0
上川	士別	1	0	0		東部	6	0	0
網走	美幌	2	0	0		東北部	4	0	0
						北部	3	0.3	0
						西部	1	0	0

**3. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生期 早 発生量 多**

長沼町の予察ほ（小豆）及び芽室町の予察ほ（菜豆）における初発期はいずれも平年より早かった。発生量は、長沼町及び芽室町のいずれも平年より多かった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、上川及び十勝地方で発生が認められている。

予察ほにおける灰色かび病発生状況（小豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	7月25日	8月5日	0	0	4.5	0.2	10

予察ほにおける灰色かび病発生状況（菜豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月14日	7月21日	5.5	1.2	10.5	6.6	10



小豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
石狩	本所	1	0	0	留萌	本所	1	0	0
後志	本所	2	0	0	網走	本所	2	0	0
胆振	本所	2	0	0		網走	2	0	0
	東胆振	3	0	0		美幌	3	0	0
檜山	本所	2	0	0	十勝	本所	5	0	0
	北部	1	0	0		東部	6	0	0
上川	富良野	2	0	0		東北部	4	0	0
	大雪	3	0	0		北部	3	0	0
	士別	2	2.0	0		西部	2	0	0
						南部	3	0.3	1.0

菜豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
胆振	本所	1	4.0	0	十勝	本所	3	0.7	0
上川	士別	1	1.0	0		東部	6	0	0
網走	美幌	2	0	0		東北部	4	3.8	0
						北部	3	1.7	0
						西部	1	0	5.0

4. 食葉性鱗翅目幼虫（大豆・小豆） 発生量 やや多

予察ほにおける食害程度は、大豆では長沼町で平年よりやや高く、訓子府町では平年並であった。小豆では長沼町及び訓子府町で平年よりやや高かった。

予察ほの大豆および小豆における食葉性鱗翅目幼虫の食害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	14	10.4	1	4.2	5	7.3	0	1.1
2半旬	20	13.5	1	6.9	6	7.5	0	1.8
3半旬	21	19.6	6	10.3	13	9.1	3	3.3
4半旬	30	22.2	16	15.1	14	10.8	7	5.6
5半旬	30	30.7	24	21.4	17	12.9	15	8.7
6半旬	41	34.2	25	25.6	21	15.6	17	11.3
平年数	10		9		10		9	

## 5. ジャガイモヒゲナガアブラムシ（大豆） 発生量 やや少

予察ほの大豆における寄生虫数は、芽室町及び訓子府町で平年よりやや少なく、長沼町で平年より少なかった。

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生虫数

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	2.7	0	3.1	2	4.1
2半旬	0	2.0	9	4.4	0	1.8
3半旬	0	0.7	7	7.5	3	3.2
4半旬	0	0.1	1	7.9	0	3.4
5半旬	0	0.7	0	4.0	2	1.0
6半旬	0	0.4	1	3.0	4	0.7
平年数	10		10		9	

注)25株2小葉、計50小葉の寄生虫数。

## 6. マメアブラムシ（小豆） 発生量 やや少

予察ほの小豆における寄生株率は、長沼町及び訓子府町で平年よりやや低く、芽室町では平年より低かった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシの寄生株率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	12	14.9	0	24.2	4	9.8
2半旬	4	18.7	4	29.6	8	12.4
3半旬	0	14.7	0	24.0	4	18.7
4半旬	0	3.6	0	16.8	0	20.4
5半旬	0	2.2	0	8.4	16	12.9
6半旬	0	0.9	0	3.6	16	9.8
平年数	9		10		9	

## F. ばれいしょ

### 1. 疫病 発生期 やや遅 発生量 やや多

予察ほの「とうや」における初発期は、訓子府町では平年より早く、芽室町では平年並、長沼町では平年よりやや遅く、北斗市では平年より遅かった。発生量は、訓子府町では平年より多く、長沼町では平年よりやや多く、芽室町では平年並であった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると檜山、上川、オホーツク及び十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおけるばれいしょの疫病初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	とうや	7月18日	7月15日	6
	スノーマーチ	7月18日	7月21日	8
北斗市	とうや	8月6日	7月6日	9
芽室町	とうや	7月13日	7月11日	9
	スノーマーチ	7月14日	7月14日	9
訓子府町	とうや	7月7日	7月14日	7
	スノーマーチ	7月15日	7月15日	7

注: 平年数は疫病が発生しなかった年を除く

予察ほにおけるばれいしよの疫病発生状況

地点	品種名	発病度											
		7月1半旬		7月2半旬		7月3半旬		7月4半旬		7月5半旬		7月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	とうや	0	0	0	0.2	0	0.7	2.0	6.1	27.0	20.1	65.0	33.8
	スノーマーチ	0	0	0	0.1	0	0.9	1.5	5.7	26.0	14.9	45.0	26.0
北斗市	とうや	0	12.8	0	21.3	0	35.4	0	40.2	0	42.7	-	45.2
芽室町	とうや	0	0.7	0	4.5	0.5	12.3	10.0	26.9	43.5	54.5	57.5	72.1
	スノーマーチ	0	0.9	0	3.8	0.5	9.3	5.5	19.3	25.0	40.0	47.5	62.4
訓子府町	とうや	0	0	0	0.7	0.5	3.0	10.5	6.1	30.0	17.8	71.0	37.3
	スノーマーチ	0	0.1	0	0.6	0	2.7	7.5	5.6	25.0	12.5	51.5	31.7

注1) :-は茎葉の枯凋により調査不能

注2) : 平年数は10年

予察ほにおけるFLABSの予測結果の適合性

地点	品種名	萌芽日	基準月日	予測初発日	70%信頼区間	初発日	判定
長沼町	とうや	5月25日	6月13日	7月2日	-	7月18日	-
	スノーマーチ	5月30日	6月18日	7月5日	6/26-7/14	7月18日	×
北斗市	とうや	5月20日	6月3日	6月24日	-	8月6日	-
芽室町	とうや	5月29日	6月17日	7月4日	6/25-7/14	7月13日	○
	スノーマーチ	6月2日	6月18日	7月4日	6/25-7/14	7月14日	○
訓子府町	とうや	5月26日	6月16日	7月4日	6/23-7/14	7月7日	○
	スノーマーチ	5月29日	6月20日	7月7日	6/28-7/15	7月15日	○

注1) 基準月日は萌芽日からの累積危険値が21に到達した日

注2) ○: 初発日が70%信頼区間内、×: 初発日が70%信頼区間外

注3) -: 予測初発日が7月3日より以前の場合、70%信頼区間の計算式がない

一般ほにおけるばれいしよの疫病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	0	0	0	網走	本所	8	0	0	1.6	0
後志	本所	4	0	0	0	0		清里	6	0	0	0	0
胆振	本所	2	0	2.0	0	0		網走	2	0	1.0	0	1.0
渡島	本所	1	0	0	0	0		美幌	2	0	0	2.5	0
檜山	本所	2	22.5	0	20.5	0	十勝	本所	5	0	0.4	0	0
	北部	2	2.5	1.0	2.5	0		東部	6	0	0.2	0.3	0.3
上川	富良野	3	0	0	0	0		東北部	2	10.0	0	32.5	0
	大雪	3	0	0	0	0		北部	3	0.3	0	0	0
	士別	1	0	0	25.0	0		西部	2	0	0	0	0
	名寄	1	0	0	0	0	南部	3	0.3	0	10.0	1.7	
							釧路	本所	2	0	0	0	0
							根室	北根室	1	0	0	0	0

## 2. アブラムシ類 発生量 やや少

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、訓子府町で平年よりやや多く、芽室町で平年よりやや少なく、長沼町では平年より少なかった。ワタアブラムシの発生量は、訓子府町で平年よりやや多く、芽室町で平年よりやや少なかった。長沼町では寄生が認められなかった。モモアカアブラムシは、長沼町で寄生が確認されたが、その密度は低かった。芽室町及び訓子府町では寄生が認められなかった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、多発生の目安となる20複葉当たり20頭の寄生数を超えたのは全62調査地点のうち、オホーツク地方の2地点であった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0.5	1.6	1	2.2	9.5	5.2	0	2.6	0	0	4	3.3
2半旬	0.5	1.2	2.5	4.2	12.5	7.2	0	7.1	0	0.9	35	4.2
3半旬	0	0.8	4.5	7.1	10	6.0	0	12.6	0	0.1	61	12.4
4半旬	0	0.4	2.5	7.3	12.5	5.4	0	16.7	0	1.1	35	22.7
5半旬	0	0.3	4	5.1	3.5	4.5	0	9.1	3	2.6	17	49.3
6半旬	0	0.3	0	2.3	3	1.5	0	2.3	0	2.3	7	31.6
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数。品種は「スノーマーチ」

巡回調査によるばれいしよのアブラムシ類寄生虫数

普及センター	地点	地点数	7月3半旬		7月6半旬		本年優占種
			本年	前年	本年	前年	
空知	南東部	1	0	0	0	0	
後志	本所	4	0	0	0	0	
胆振	本所	2	4.5	0	5.5	0	モモアカ、ワタ
渡島	本所	1	0	3.5	1.0	19.5	ワタ
檜山	本所	2	0	0	0	0	
	北部	2	0.5	0	1.5	0	
上川	富良野	3	0	0	0.7	0	モモアカ
	大雪	3	1.7	0	0.3	0.3	ヒゲナガ、モモアカ、ワタ
	士別	1	0	1.0	6.0	0	
	名寄	1	3.0	0	0	0	ヒゲナガ
網走	本所	8	7.5	1.5	4.8	0	ヒゲナガ、モモアカ、ワタ
	清里	6	2.0	1.5	2.2	3.2	ヒゲナガ、モモアカ、ワタ
	網走	2	1.0	0.5	17.5	0	ヒゲナガ、ワタ
	美幌	2	12.5	0	6.5	0	モモアカ
十勝	本所	5	3.6	1.2	0.4	0	モモアカ、ワタ
	東部	6	0.5	0.2	0.7	0.3	ヒゲナガ、モモアカ、ワタ
	東北部	2	0.5	0	0	0	
	北部	3	0	0	0	0	
	西部	2	0	0.5	3.0	3.0	ワタ
	南部	3	0.3	0	0.7	0	ヒゲナガ、モモアカ
釧路	本所	2	0	0	0	0.5	
根室	北根室	1	1.0	0.3	0	4.0	ヒゲナガ

注1) 10株20複葉調査

注2) ヒゲナガ：ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタ：ワタアブラムシ、モモアカ：モモアカアブラムシ

## G. てんさい

### 1. 褐斑病 発生期 早 発生量 多 <6月29日付け注意報第3号>

予察ほにおける初発期は、長沼町及び芽室町の「あまいぶき」ならびに、訓子府町の「ライエン」のいずれも平年より早かった。発生量は訓子府町の「ライエン」で平年より多く、芽室町の「あまいぶき」で平年よりやや多く、長沼町の「あまいぶき」では平年並であった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、全72調査地点のうち石狩、後志、上川、オホーツク、十勝地方の27地点で発生が認められた。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名 (褐斑病抵抗性)	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	あまいぶき(弱)	6月28日	7月9日	0.4	1.0	0.8	2.3	10.8	9.7	10
	ライエン(やや強)	6月30日	7月10日	0.4	0.2	2.0	1.2	5.6	3.5	7
芽室町	あまいぶき(弱)	7月1日	7月7日	3.2	2.0	9.6	3.3	17.6	11.6	8
	ライエン(やや強)	6月28日	7月5日	0.8	2.2	4.2	2.9	11.6	6.2	7
	スタウト(強)	6月29日	7月11日	1.6	2.2	6.4	2.4	6.8	6.8	8
訓子府町	ライエン(やや強)	7月6日	7月12日	1.6	0.3	3.6	1.5	11.2	4.8	10

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	0	0	0	網走	本所	9	0.1	0.2	0	0
			3.0	0	6.0	1.3				清里	6	0.2	0
石狩	本所	2	0.7	0	0.7	0	網走	2	2.5	0	2.0	0	
後志	本所	3	0	12.0	0	3.0	美幌	5	0	0	0.2	0	
胆振	本所	4	0	0	0	0.7	遠軽	3	1.0	0	2.0	0.3	
			東胆振	3	0	0	0	0.7	十勝	本所	7	0.1	0
上川	富良野	3	0.7	0	1.0	0	東部	5		2.2	0	5.2	0
			0.3	0	0	0	東北部	4		1.8	0.3	4.3	0.3
			0	0	24.0	0	北部	3		0	0	0	0
			4.0	0	4.0	0	西部	3		1.0	0	4.0	0
	名寄	2	0.7	0	1.9	0.3	南部	3		0.7	0	1.9	0.3

### 2. ヨトウガ(第1回) 発生量 やや少

予察ほにおける見取り調査では、食害程度は、長沼町で平年よりやや高く、芽室町及び訓子府町では平年よりやや低かった。なお、見取り調査において長沼町では第2回成虫による産卵が確認された。

一般ほにおける7月3半旬の巡回調査によると、全72調査地点のうち被害株率が50%以上となったのは上川地方の1地点のみであった。

予察ほにおけるヨトウガの卵塊数および食害程度

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.2	0	0.4	0	0	35	24.8	20.5	13.1	0	2.6
2半旬	0	0.4	0	0	0	0	52	34.5	23.5	17.9	0	6.3
3半旬	0	0.2	0	0	0	0.1	62	43.2	26.5	24.4	3	10.1
4半旬	0	0	0	0	0	0	59	53.2	27	30.1	5	15.0
5半旬	0	0	0	0	0	0	61	57.2	27.5	33.5	8	20.1
6半旬	0.6	0.3	0	0.1	0	0	58	58.8	27.5	35.3	12	23.9
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率および食害程度

普及センター	地点数	被害株率(%)		食害程度		普及センター	地点数	被害株率(%)		食害程度			
		7月3半旬		7月6半旬				7月3半旬		7月6半旬			
		本年	前年	本年	前年			本年	前年	本年	前年		
空知	南東部	1	6.0	0	2.0	0	網走	本所	9	10.7	16.9	5.8	14.3
石狩	本所	2	20.0	12.0	10.0	0.7		清里	6	5.8	17.3	10.3	11.5
後志	本所	3	14.0	6.7	3.7	5.0		網走	2	17.5	33.0	30.5	20.5
胆振	本所	4	7.0	14.0	8.0	5.5		美幌	5	4.8	4.8	18.0	8.8
	東胆振	3	8.0	12.0	9.3	3.7		遠軽	3	7.7	26.7	5.0	23.7
上川	富良野	3	2.7	5.0	1.2	1.7	十勝	本所	7	13.1	16.1	17.4	4.3
	大雪	3	0	0	0	1.7		東部	5	13.6	6.2	3.4	4.6
	士別	1	0	5.0	0	1.0		東北部	4	24.8	21.5	16.0	12.3
	名寄	2	52.0	29.0	13.0	25.0		北部	3	2.0	0	2.3	0
								西部	3	6.0	9.7	5.7	3.7
								南部	3	15.3	2.3	12.0	6.3

## H. たまねぎ

### 1. 白斑葉枯病 発生量 やや多

予察ほにおける発生量は、長沼町では平年より多く、訓子府町では平年並であった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、空知、上川、オホーツク、十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	51.5	32.8	75.5	46.9	81.0	69.1	10
訓子府町	北もみじ2000	2.0	5.2	9.5	10.6	18.5	20.7	10

一般ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)				普及センター	地点数	発病株率(%)					
		7月3半旬		7月6半旬				7月3半旬		7月6半旬			
		本年	前年	本年	前年			本年	前年	本年	前年		
空知	本所	5	6.0	0	18.8	0	網走	本所	8	0.6	0.5	4.9	0.3
	南東部	3	0	3.7	0	0		清里	2	50.0	0	69.0	0
	南西部	3	0	0	0	0		美幌	4	0	1.3	0	0.3
	中空知	1	16.0	0	4.0	0		遠軽	1	14.0	2.0	19.0	2.0
石狩	北部	2	0	0	0	0	十勝	本所	3	0	0.7	9.3	0.7
上川	富良野	4	0	0	0	0		東部	2	13.0	11.0	38.0	13.0
	大雪	1	0	0	0	0							
	士別	1	4.0	0	9.0	0							

## 2. ネギアザミウマ 発生量 やや多

＜6月20日付け注意報第2号＞

予察ほにおける寄生虫数は、長沼町では平年よりやや多く、訓子府町では平年並であった。被害程度は、長沼町及び訓子府町で平年よりやや高かった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、全40調査地点のうち、寄生株率が50%以上となったのは空知、上川、オホーツク及び十勝地方の15地点であった。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況

月・半旬	成虫数(25株あたり)				幼虫数(25株あたり)				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	167	70.1	186	66.3	125	196.3	857	1060.6	60	30.9	84	56.0
2半旬	178	122.6	136	130.4	546	364.3	961	1205.1	74	40.4	99	70.1
3半旬	273	126.3	94	146.9	3246	449.8	1763	1512.6	88	48.7	99	82.9
4半旬	472	135.9	14	134.8	1793	1440.4	1098	1635.7	94	57.7	99	91.7
5半旬	397	119.5	3	99.1	1972	471.4	447	1432.9	100	64.0	100	95.3
6半旬	-	39.7	27	69.1	-	115.9	69	1565.8	-	40.3	100	97.8
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) -:倒伏により調査不能

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率(%)

普及センター	地点数	7月3半旬		7月6半旬		普及センター	地点数	7月3半旬		7月6半旬			
		本年	前年	本年	前年			本年	前年	本年	前年		
空知	本所	5	54.4	24.8	68.0	26.4	上川	富良野	4	7.0	8.0	3.8	1.0
	南東部	3	87.7	29.3	71.7	22.7		大雪	1	10.0	25.0	10.0	30.0
	南西部	3	81.0	70.7	65.3	42.7		士別	1	15.0	5.0	51.0	28.0
	中空知	1	28.0	20.0	48.0	4.0		網走	本所	8	11.8	3.0	7.5
石狩	北部	2	22.0	0	16.0	0	清里		2	58.0	60.0	68.0	4.5
							美幌		4	13.5	7.0	14.5	4.0
							遠軽		1	33.0	22.0	53.0	42.0
十勝	本所	3	26.0	24.3	25.3	33.3	東部	2	60.0	14.0	83.0	56.0	

## I. あぶらな科野菜

### 1. 軟腐病 発生量 多

予察ほ(だいこん)の春まき作型では平年より多く、初夏まき作型では発生が認められていない。

予察ほにおける軟腐病発生状況

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	おしん	春まき	0	0	3.5	0.2	7.5	1.3	10
		耐病総太り	初夏まき	-	-	0	0	0	0.4	10

注) -:調査時期外

## 2. モンシロチョウ 発生量 並

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年よりやや多く、北斗市では平年よりやや少なかった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.1	6	17.1
2半旬	54	13.6	27	39.7
3半旬	90	31.7	46	73.1
4半旬	90	66.3	35	79.2
5半旬	27	53.0	23	79.6
6半旬	0	39.1	8	40.1
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

## 3. コナガ 発生量 やや少

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、北斗市で平年よりやや多く、長沼町、比布町及び訓子府町で平年よりやや少なく、芽室町で平年より少なかった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、北斗市で平年並、長沼町では平年よりやや少なかった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	23	32.9	21	14.9	141	35.6	1	5.1	6	4.1
2半旬	62	56.3	11	20.9	95	45.8	0	3.8	3	3.7
3半旬	77	104.7	4.3	14.7	59	60.0	0	2.6	5.8	4.4
4半旬	31	129.9	3.8	13.6	31	53.5	0	5.1	4.3	3.8
5半旬	41	86.8	4	11.4	61	45.4	0	3.0	0	5.4
6半旬	35	102.7	0	6.6	42	68.2	0	2.1	0	5.3
平年数	10		7		10		10		10	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺、比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.6	7	7.1
2半旬	9	4.4	20	17.6
3半旬	42	16.5	181	41.0
4半旬	107	70.0	197	103.8
5半旬	55	174.8	4	166.0
6半旬	5	153.3	9	125.1
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。



## J. りんご

### 1. 黒星病 発生量 並

長沼町の予察園（無防除）での発生量は、「昂林」及び「ふじ」のいずれの品種とも平年より多かった。一方、余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められていない。

一般園における巡回調査の報告によると、渡島地方で発生が認められている。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	86.4	18.1	92.8	23.9	96.7	30.2	10
	ふじ	77.3	26.4	89.0	36.6	90.3	44.5	5

余市町の予察園（慣行防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)									
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町	昂林	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—

注1) 余市町の予察園は慣行防除

注2) 調査品種変更に伴い平年値なし

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	0.3	0
留萌	南留萌	1	0	0

### 2. 斑点落葉病 発生量 並

長沼町の予察園（無防除）における発生量は平年並であった。余市町の予察園（慣行防除）では新梢及び徒長枝のいずれでも発生は認められていない。

一般園における巡回調査の報告によると、渡島及び留萌地方で発生が認められている。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	新梢	1.4	1.4	2.0	2.0	2.0	2.8	10
王林	徒長枝	0.7	0.8	0.7	1.3	1.3	2.0	10

余市町の予察園(慣行防除)におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)									
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町	新梢	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
昂林	徒長枝	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—

注1) 余市町の予察園は慣行防除

注2) 調査品種変更に伴い平年値なし

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	6.1	0
留萌	南留萌	1	6.0	0

### 3. ハマキムシ類 発生量 少

予察園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、長沼町（無防除）及び余市町A（慣行防除）で平年より少なかった。余市町B（慣行防除）では誘殺が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、岩見沢市及び七飯町で平年並、札幌市で平年よりやや少なく、石狩市、壮瞥町及び旭川市では誘殺が認められなかった。

予察園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	7.9	0.7	1.9	0	1.5
2半旬	0	6.5	0	0.7	0	1.2
3半旬	1	3.3	0	0.4	0	0.5
4半旬	1	2.7	0	0.2	0	0.8
5半旬	0	0.3	0	0.1	0	1.7
6半旬	0	0.1	0	0.1	0	1.0
平年数	10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	1.2	0.6	5.1	0	1.0	0	0.9	3.4	4.9	0	1.5
2半旬	0	0.4	0.4	3.5	0	0.8	0	0.2	1	2.5	0	1.0
3半旬	0.4	0.3	0	2.1	0	0.0	0	0.2	0.8	0.4	0	1.1
4半旬	2.1	0.2	2	0.6	0	0.4	0	0.1	0.1	0.2	0	0.7
5半旬	0.4	0.1	0	0.3	0	0.1	0	0.1	0.6	0.1	0	0.1
6半旬	0	0.1	1.7	0.3	0	0	0	0.1	0.3	0.3	0	0.7
平年数	10		10		10		10		10		10	

#### 4. モモシンクイガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町（無防除）及び余市町B（慣行防除）で平年並、余市町A（慣行防除）では平年よりやや少なかった。長沼町の予察園における産卵数は平年並だが、被害果率の上昇は早かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、札幌市で平年より多く、旭川市で平年よりやや多く、岩見沢市で平年並、七飯町及び壮瞥町で平年よりやや少なかった。

巡回調査では、調査対象の5園地いずれにおいても産卵は確認されなかった。

予察園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						産卵数		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	52	27.1	17.1	10.3	29.3	20.9	3	31.2	0	0.1
2半旬	41	59.9	1.4	14.1	13.6	22.8	101	77.1	6	2.2
3半旬	120	57.6	10.9	18.0	26.9	23.8	174	152.7	85	12.9
4半旬	17	105.2	17.4	22.0	34.7	33.5	226	182.2	100	44.9
5半旬	188	102.5	18.3	32.9	30.8	39.3	211	233.0	100	72.2
6半旬	84	137.2	18	41.9	33	61.7	73	171.9	100	86.8
平年数	10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。産卵数は100果あたりの卵数。

一般園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	3	2.5	32.2	12.2	3	4.5	4.5	0.7	35.5	14.0
2半旬	8.9	5.6	41.9	18.4	4.4	5.6	6.5	2.7	27.5	18.0
3半旬	10.7	7.9	54.3	28.4	4.3	7.2	8.2	6.5	54.5	25.7
4半旬	17.9	11.5	48	27.0	3.3	9.6	17	16.3	73	33.4
5半旬	13.2	14.9	45.8	26.1	0	8.1	25	35.8	48.5	38.7
6半旬	11.0	20.4	41.7	32.8	0.6	8.9	22.7	65.2	33	40.5
平年数	10		10		10		10		10	

#### 5. ハダニ類 発生量 少

予察園においては、いずれの地点においてもリンゴハダニ及びナミハダニの発生は認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.4	0	0	0	0.4	0	0	0	0.8	0	5.2
2半旬	0	0.4	-	0	-	0	0	0	-	0.9	-	1.0
3半旬	0	0.2	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1
4半旬	0	0.7	0	0	0	1.8	0	0.5	0	0.9	0	6.5
5半旬	0	0.2	0	0.3	0	0	0	0	0	3.0	0	3.0
6半旬	0	0.3	-	0.1	-	1.4	0	0	-	3.0	-	3.1
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 30葉あたりの寄生数。余市町A、Bの予察園は慣行防除。

## 6. キンモンホソガ 発生量 やや少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町（無防除）及び余市町B（慣行防除）で平年並、余市町A（慣行防除）では平年よりやや少なかった。被害葉率は、長沼町で平年並であった。余市町A及びBでは被害が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、増毛町で平年よりやや多く、岩見沢市、札幌市及び旭川市で平年並、石狩市及び七飯町では平年より少なかった。壮警町では誘殺が認められなかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	6	7.2	27.9	35.6	46.4	49.3	0	0.5	0	0.0	0	0.0
2半旬	10	6.2	15	36.8	35.7	46.8	0	0.5	-	0	-	0
3半旬	1	6.7	33.4	42.3	55.9	36.0	0	0.7	0	0	0	0
4半旬	3	6.3	36.9	52.4	65.9	34.9	0	1.3	0	0	0	0.1
5半旬	1	6.7	1.7	49.4	52.5	87.6	0	0.9	0	1.1	0	0.7
6半旬	13	10.6	6	81.3	60.8	270.3	4.0	2.4	-	1.2	-	0.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		壮警町		七飯町		増毛町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	7	18.7	0.6	0.5	0	21.0	0	44.0	3.3	39.6	311.3	82.9	5	3.0
2半旬	8.9	25.7	0.4	0.4	2	36.6	0	61.8	0.5	71.7	148.3	90.2	3	2.2
3半旬	9.5	25.2	0	0.7	1	43.5	0	49.1	0.6	55.7	103.8	66.2	1	0.9
4半旬	12.1	11.0	1	0.3	5	49.5	0	41.5	0.9	24.2	106.2	55.7	1	1.0
5半旬	6.4	9.0	0	0.3	1	37.8	0	18.6	0.6	16.3	63.8	44.9	0	0.6
6半旬	16	10.5	1.7	0.7	0	13.2	0	38.4	5.6	35.1	83.3	36.1	0	0.2
平年数	10		10		8		10		10		10		10	

令和4年

6月1日～8月31日は**農薬危害防止運動実施期間**です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。

**農薬は 周りに配慮し 正しく使用!**

周囲への飛散防止!  
**農薬散布は無風 または 風が弱いとき**

周囲への配慮を!  
**周辺住民の方に 事前にお知らせ**

ラベルの確認、帳簿に記録

土壌くん蒸剤は 必ず被覆

誤飲防止のため 移し替え厳禁

詳しくはこちら ▶

[https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_tekisei/](https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/) 農薬の適正使用 農林水産省 検索

令和4年度農薬危害防止運動 農林水産省・厚生労働省・環境省・都道府県共催

北海道

令和4年6月1日～8月31日

★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法などについては、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」をご覧ください。

URL <https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>

北海道農政部生産振興局技術普及課  
(TEL 011-231-4111 (内線)27-838)  
北海道病害虫防除所  
(TEL 0123-89-2080)  
各総合振興局・振興局農務課